

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 2011年 クリスマス募金による活動報告書

募金件数: 11,173件

募金金額: 76,875,927円

募金期間: 2011年10月1日～2012年4月30日

皆さまからいただきましたクリスマス募金(クリスマス食糧支援募金)により、アフリカやアジアで、食糧や水の不足により健やかな成長が阻まれている子どもたちや人々への支援を行うことができました。感謝とともに、報告させていただきます。

長い内戦の末に世界で最も新しい独立国となった、南スーダン共和国。 帰還民や彼らを受け入れる人々への支援を行いました。

南スーダンでは、2011年1月の独立を問う住民投票、さらに2011年7月9日に独立した後、内戦を逃れて各地に避難していた多くの帰還民が戻ってきました。とくにアッパーナイル州マニョ郡は人口の20%以上が帰還民ですが、帰還民を受け入れるコミュニティも水、衛生施設など必要な社会基盤が整っていなかったために、人口増加は人道危機をさらに深刻化しました。このため、不衛生な水を介した病気の蔓延が大きな問題となっています。

内戦で破壊され、さらに治安が悪化した地域で 水、衛生そして教育支援を行っています

ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)は、皆さまからの募金により、ジャパン・プラットフォーム^{*}と共同で、アッパーナイル州マニョ郡において、帰還民および受け入れコミュニティに対し、水衛生、教育分野に関する支援を行っています。



人々に浄水装置の管理方法を教えるWVスタッフ



学校運営について、PTAの研修を受けた人々



南スーダン共和国における帰還民支援で、水、衛生、教育支援を受ける小学生たちと、ワールド・ビジョン・ジャパン國吉スタッフ

しかし独立以降、治安の悪化が著しく、事業チームも2011年8月13日、スーダン人民解放軍と反政府軍による戦闘に巻き込まれました。事業地周辺には地雷が埋められているという報告もあります。そのため、事業に大幅な遅れがみられ、支援は当初予定の場所を移し、さらに活動期間を2012年5月31日まで延長しました。そのような状況ではありますが、支援により、安全な水を供給する浄水装置の設置、換気改良型トイレの設置、浄水装置を人々自ら管理できるように修理の方法などの研修を行っています。また、手を洗うことの大切さ、安全な水の使用で下痢や赤痢などの感染を予防できること、排泄物の適切な処理など、衛生に関する啓発活動も行っています。さらに、教育支援として、学校建設、学校運営を行うためにPTAの研修、先生の研修などを行っています。今後も子ども世帯(子どもだけで生計を立てている家庭)、病気の人、障がい者、高齢者など弱い立場に置かれている人々を対象に、南スーダンにて活動を続けていく予定です。

^{*}ジャパン・プラットフォーム: NGO、経済界、政府の対等なパートナーシップのもと、世界各地で起こる地震などの自然災害、紛争などにより発生する人道危機に対して迅速かつ効果的な支援を行う団体です。

内戦でもっとも影響を受けるのは、貧しい人々そして子どもたち。

コンゴ民主共和国、タンザニアの避難民キャンプで、栄養不良に苦しむ子どもたちを支援しました。

コンゴ民主共和国(東部)

紛争により、約120万人(半数は18歳未満の子ども)が国内避難民となり、不安定な治安のため農業を営むことができず、深刻な食糧不足に陥りました。子どもたちは学習する体力を失い、7割の子どもたちが登校できなくなりました。

食糧配布とともに、学校給食を実施しました

南北キブ州において、食糧危機への対応と子どもの登校率を向上させるため、食糧支援と学校給食の実施を行い、14万1,139人の子ども、3,661人の教師、8万8,603人の国内避難民に合計5,178人トンの食糧を配布しました。また、労働の対価として食糧を配布する支援により、1,424人を料理担当として採用しました。

支援においては、地域の人々や生徒の親から成る給食委員会が食糧配給に携わり、人々自身が調理に使う薪を持ち寄るなど、住民の積極的な参加が行われました。

さらに、15万2,570人の子どもの健康改善のため、寄生虫を体外に排出するための駆虫薬を配布しました。健康状態が改善され、子どもたちは集中して授業を受けることが可能になりました。



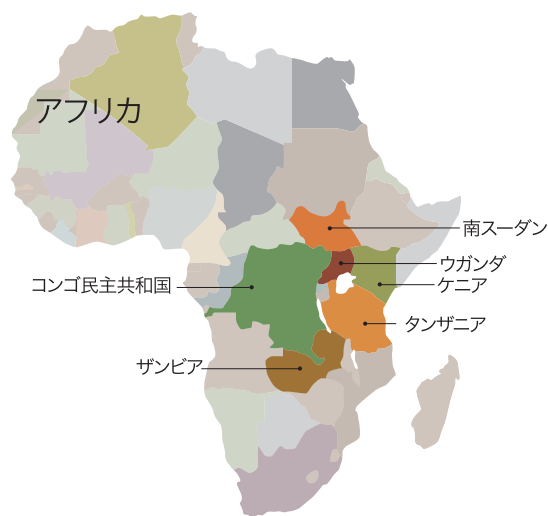
カメネコ小学校給食支援を受ける子どもたち

学校給食による支援を受けたムニヒレくん(小学校6年生)の声(コンゴ民主共和国)

ぼくの家はとても貧しいので、ワールド・ビジョン(以下、WV)がぼくたちに給食の支援をしてくれて、とてもうれしかったです。以前は、おなかが空いてつらかったので、授業の途中で家に帰っていましたが、学校給食が始まってから、きちんと勉強できるようになりました。小学校3年生の弟も、この給食が食べられてとても喜んでいます。



給食を料理する風景



支援を受ける人々の積極的な参加により、食糧支援を行いました

キゴマ州のニャラグス難民キャンプおよびムタビラ難民キャンプで生活する約6万2,500人を対象に、穀物、豆類、植物油、CSB(トウモロコシと大豆にビタミン強化したおかゆの素)、塩などを合計1万3,920トン配布しました。

出身や宗教など人々の食文化に配慮した内容で隔週配布され、必要な量や栄養の食糧が全員に行き届くように、対象を小グループに分けて配給の平等に努めました。また、食糧の安全・衛生を適切に管理できるように、食糧倉庫の管理体制を整えました。

タンザニア共和国

タンザニア北西部には、紛争を避けてブルンジとコンゴ民主共和国から逃れてきた多くの難民が暮らしています。コンゴ民主共和国では未だに武力紛争が続き、母国への帰還は困難な状況です。また、2008年に停戦合意がされたブルンジも難民の帰還が進まず、多くが難民キャンプに残ったままです。そのため、各地の難民キャンプで食糧が不足していました。

干ばつや洪水など、近年の気候変動は、途上国に最も影響します。

子ども世帯など、とくに立場の弱い人々を支援できました。

ウガンダ

東北部カラモジャ地域では、人口106万人のうち80%以上が、1日1ドル以下の生活という貧困にあります。収穫や収入が天候に左右される農業や畜産で生計を立てているため、近年の干ばつにより、人口の10%が急性栄養不良と報告されるほど、栄養状況が悪化、また2011年も干ばつが続き、食糧不足はさらに深刻化しました。

災害に強い地域を目指して、かんがいや菜園運営の支援しました

カラモジャ地域で、国連世界食糧計画(WFP)と協力し、14万8,912人を対象に食糧支援を行いました。とくに立場の弱い人々を対象として、穀物、豆類、食用油、CSB、塩などを1万1,581トン配布しました。また、公共事業などの労働の対価として食糧を配給する支援を行い、労働を通して人々の自立心を育てながら、かんがい整

備、菜園の運営、農作物の耕作、植林による環境保全など、必要な施設や環境整備の強化を行いました。



支援を受けた、ウガンダのトゥッコさん

トゥッコさんは、例年の干ばつにより野菜が手に入りにくくなり、何年も(黄緑色)野菜を食べることができませんでした。しかしWVの支援により、初めて自分の庭に野菜を植え、収穫することができました。家族の分だけでなく、市場で売ることも可能となり、収入で生活に必要な物を買うようになりました。

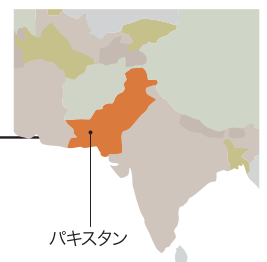
ケニア

「アフリカの角」と呼ばれる北東部の国々(ケニア、エチオピア、ソマリア)では、2011年、過去約60年の中で最悪といわれる干ばつが発生し、1,240万人以上の人々が食糧危機に陥りました。WVJは、とくにケニアの人々のために支援を行いました。

干ばつで苦しむ人々、食糧を手に入れることができない人々へ、食糧支援を行いました

リフトバレー州東ポコト県に住む、干ばつにより家畜を失った人々、食糧を得ることが難しい人々、また、母子家庭、子ども世帯、

高齢者、障がい者などの弱い立場に置かれている人々約6万5,000人に対する食糧支援を行いました。また、西ポコト県において、干ばつによる急激な食糧の減少、伝統的農業による土地の劣化、食糧価格の高騰などで、食糧を手に入れることが難しく、とくに弱い立場に置かれている7万3,254人を対象に、食糧支援を実施しました。



パキスタン

2010年から2年連続で洪水に襲われ、とくにシンド州カプール地域の被害は大きく、2010年は345万9千人が、2011年は92万7千人が被害をこうむりました。現在も63%の家屋が居住不可能であり、33%の人々が食糧支援なしでは生活することができない状況にあります。

立場の弱い人々へ、栄養に配慮した食糧支援を行いました

WFPと協力して、カプール地域の21万人を対象に食糧配布を行いました。住居を失った世帯や、とくに弱い立場にいる人々に、穀物、豆類、植物油、食塩、高カロリービスケット、および栄養補助食品を一世帯につき1カ月分99.5kgを配布しました。また、被災した人々自身も活動に加わったことで、弱まった地域の人々のきずなを回復する一助にもなりました。

担当、國吉スタッフのコメント

給食は子どもたちの命綱、食糧支援は人々にとって生き延びるための希望となっています!

支援地の子供たちを見てると、「この子は何を考えて一日を生きるのだろう」と思います。日々の糧のことを心配せずに生きていける私には、想像が付きません。お腹を空かせたまま夜眠らなくてはならない彼らの過酷な現実、いつも愕然とします。給食は子どもたちの命綱であり、食糧支援は人々にとって生き延びるための希望です。温かいご支援により、「明日も生きていける」という希望を人々へ届けことができ感謝いたします。今後も食糧支援を通して、世界の弱い立場に置かれた人々を支援していきます。

貧困と気候変動により、農業と酪農に打撃を受けたザンビアの人々。 人々が活動の中心となることで、継続的な支援が可能となりました。

ザンビアの人々は、小さな畑で食糧を確保する貧しい小規模農家が、大多数を占めます。生産物は、メイズ(トウモロコシの一種)、ソルガム(穀物の一種)などで、ほとんどは家族の食糧となり、収入になるだけの量はありません。また近年の干ばつや不規則な降雨により、収穫が非常に不安定となるとともに、伝染病の蔓延で家畜を失うなど、人々の生活は一層困難となりました。

酪農普及の支援で、子どもたちの栄養不良が改善されました

WVJは、2010年からとくに貧困の厳しいマザプカ郡マゴエ地区ムネンガで、酪農支援を行っています。収穫できるようになった牛乳は、子どもたちの栄養はもちろん、販売することで収入の向上にもなっています。

これまで、70世帯に対して雌牛を貸与し、技術や経営手法などの研修を行い、酪農の復興に努めました。また飼料となる牧草の種子を提供し、牧草地・飼料畑造営を指導しました。量が豊富で良質な牧草の自給が可能になれば、草が枯れてしまう乾期にも十分な飼料を確保する備蓄ができ、牛乳の質と量の向上も期待できます。

また、地区の農家から獣医の役を担う人(CLA)10名を選任し、家畜の医療衛生の基本を指導、CLAは牛の病気や怪我に対応することが可能になりました。地域には常駐の獣医師がおらず、牛が



牛の貸与の支援を受けたギルバートさん(中央)と、WVスタッフ(右)

病気や怪我をした場合には、これまでは遠い町にある地区獣医局に頼らねばなりませんでした。今後は、CLAにより医療衛生サービスがいつでも受けられるようになりました。牛の病気を予防するための薬剤散布も、CLAが定期的に行っています。

さらに、CLA5名と優秀な農民5名を対象に、人工授精技術の研修を実施しました。国立人工授精普及所との連携で、人工授精を実施する態勢を確立していきます。これにより、乳牛の継続的な増加が期待できます。



CLAのステューブ・ムナウンバさん(48)は、8人の子どものお父さんです。ステューブさんはこれまで、主にメイズと綿花から収入を得ていて、酪農が収入になることなど知りませんでした。彼はCLAになるための研修と、人工授精師の研修を受け、地域の酪農普及に貢献しています。研修の修了証を満面の笑みで見せながら、「この歳になって、勉強して免状をもらうことができました。地域に酪農を広め、みな暮らしが良くなるのが楽しみです」と言います。CLAになって一番印象に残っている出来事はなにか聞いてみました。「ある晩、牛の飼い主のギルバートさんが来て、雌牛がお産で苦しんでいると言います。大変な難産でしたが、私は研修で習った通りを行い、元気な仔牛をとりあげました。役に立てたことをうれしく思いました」と笑顔で語ってくれました。

CLAのステューブさんが取り上げた仔牛

担当、芳島スタッフのコメント

ザンビアの農民にとって、畑の収穫は不安定です。そのため、主食のメイズではなく、商品作物の綿花の栽培に切り替え、収入向上を目指した農家もありました。綿花は少雨でも比較的よく育ちますが、それでも今年の収穫は減少することが予想されます。しかし、支援により酪農を始めた農家は、毎日摂れる牛乳により、少しずつですが安定した収入を得ることができるようになりました。牛乳は、そのまま飲むほか、牛乳粥など料理に使うこともできます。子どもたちの表情は明るく、顔色も良いようです。元気で丈夫になったと、お母さんたちも笑顔で話してくれました。地道な活動ですが、支援の成果がはっきりと見えるようになり、ご支援にとっても感謝しています。



集乳所の前で、酪農支援を受けている人と芳島スタッフ

●募金についての問い合わせ先

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-17-8-3F
電話03-3367-7621 受付時間9:30~19:00(平日 月~金)
FAX03-3367-7652 Email: dservice@worldvision.or.jp

※事務所移転のため、7月2日(月)以降のお問い合わせは以下にお願いします
〒164-0012東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
Tel:03-5334-5351 受付時間9:30~19:00(平日 月~金)
Fax:03-5334-5359 Email: dservice@worldvision.or.jp

<http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発支援、緊急人道支援、アドボカシー(政府や市民への働きかけ)を行う国際NGOです